

## 観光交流部門

### 若狭鯖街道熊川宿のみんながよくなるまちづくり

若狭熊川宿まちづくり特別委員会 会長 河合 健一  
若狭町 歴史文化課 岡本 潔和

#### 1. 活動方針・目的

熊川は、国の重要伝統的建造物群保存地区として歴史的景観の保存が図られている地域のため、歴史や自然を活用しながら、ここに暮らす人々が「住み続けたい」、訪れる人々が「また来たい」と思う環境整備を続けています。住民が主体となり行政がサポートしながら活動しており、伝統文化活動の活性化や観光客の大幅な増加につながっています。

#### 2. 活動内容

まずは、住民が快適に住み続けたいと思えるまちづくりを目標に、地域に誇りが持てるよう環境整備を進めました。活動は、定期的な建物の修理、前川用水（平成の名水百選）の清掃作業、街並みを俯瞰できる高台への遊歩道の整備など多岐におよび、これらを継続することで建物補修技術の研究と伝承にも発展しています。地域の誇れる伝統文化として京都の一乗寺郷土芸能保存会との交流により、京都から伝わったとされる「てっせん踊り」を80年ぶりに復活させ、地元の小学校にも出向いて、郷土愛の醸成と文化伝承の活動にも取り組んでいます。このように住民が我が街をより良くしていくことで、観光客増加の波及効果となっています。また、住民と観光客の交流を進めることを目的とした「熊川おもてなしの会」を設立し、旧家を活用した喫茶「勘兵衛茶屋」とお泊まり処「熊川宿勘兵衛」を運営しています。さらに若手が中心となって、観光イベント「熊川いっぷく時代村」の開催を定着化させ、駕籠かつぎレースなど工夫を凝らした催しがリピーターの獲得に一躍かっています。

#### 3. 他の活動団体の参考となる事例

住民が地域を良くすることが活動の原点であることから、例えば平成20年度には「伝建地区熊川宿の防災まちづくり計画」を策定しています。従前の行政主体の防災計画ではなく、住民自らリサーチし対策を考え実行計画を立てて行政の計画にも反映させるスタイルです。安心・安全・快適に住む街をみんなで築いています。熊川は少子高齢化の進行が高いため「第二次熊川まちづくりマスタープラン」を策定するなど、みんなで課題に取り組む体制が整っています。これは、定期的に住民総出で用水を清掃する活動などから発展するもので、住民が我が町をより良くする精神がベース。壮年期の住民が多彩なイベントを企画することで一層観光客が増えており、熊川を訪れた方による「熊川宿ファンクラブ」が立ち上がり、単なるリピーターの会ではなく、観光客も住民と一緒にまちづくりに参画し、熊川に対する思いの輪を広げる取組みを目指しています。

#### 4. 今後の課題等

これまでは恵まれた地域の資源と強力なリーダーシップがあり、行政が活動を支える体制も整っていることで成功していますが、次の世代につなげるため今後は若い世代を取り込んでいきたいところです。

# 若狭鯖街道熊川宿

～みんながよくなるまちづくり～



大正時代の熊川宿

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

河合健一

## 鯖街道



平成8年7月9日、全国で42番目となる重要伝統的建造物群保存地区選定。調査から15年目の選定でした。この時から、町並みを活かした新たなまちづくりが始まりました。



平成10年の熊川宿中ノ町。道路が地道風に、電線電柱がなくなり、前川の護岸を石積みにして、橋が架かりました。山並みを借景に開放的な歴史的景観がよみがえりました。



中ノ町景観整備完成を祝って、80年ぶりに復活した「てっせん踊り」を初披露しました。てっせん踊りの復活には、京都の一乗寺郷土芸能保存会の皆様にお世話になりました。



平成14年、文化庁の支援を受けて、山車の復元が完成。春の神社の祭礼と秋のいっぷく時代村の時に巡行しています。



平成16年、文化庁のご紹介で行われたブータン王国との歴史的建造物保存に関する交流会。踊りやそばうちなどを通じて交流を深めました。



一人の主婦のひと言から、仲間の輪が広がり、平成19年、熊川宿おもてなしの会による喫茶「勘兵衛茶屋」がオープンしました。平成21年からは宿泊施設の運営も始めています。



平成19年、鯖街道交流シンポジウム開催。小浜、熊川、保坂、朽木、一乗寺、京都出町のまちづくり団体の方々をお迎えし交流を深めました。



平成20年、前川が環境省の「平成の名水百選」に選定されました。地域ぐるみで保全活動を行ってきたことが評価されました。



平成21年、「伝建地区熊川宿の防災まちづくり計画」策定。ワークショップで作成した「住民アクションプラン」を計画に取り入れ、住民と行政の協働による熊川らしい計画になりました。



平成23年、継承が危ぶまれる「熊川葛」を再興するため、有志が立ち上がりました。近くの山で葛根を掘り、二十数回の寒晒し作業を経て、純白の「熊川本葛」を作り上げました。

## まとめ

- みんながよくなることを目指す
- 地域資源を活かし、まちに誇りをもつ
- それぞれの持分を果す
- 住民が主役
- 外とのつながりを大切にする

